

浴室テレビ (24V型ワイド) EKK30177/PTZ0080

組込設置編

- TOTO製システムバスルームに取り付ける場合は、この組立説明書とシステムバスルーム組立説明書を合わせてご覧ください。
- この組立説明書に記載してあるシステムバスルーム向けの組立要領はTOTOシステムバスルーム用のものです。他社システムバスルームに取り付けの場合は、各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。

UB組立業者様へ

別冊の組立説明書の **電気工事編** は、電気工事業者様へ確実にお渡しくさせていただきますようお願いいたします。

また、試運転は電気工事終了後に行いますので、元請店様へ依頼のうえ、別冊の組立説明書の **電気工事編** をお渡しくください。





目次

組立の前に	安全上のご注意	1
	工具	3
	現場必要部材	3
	組立手順	4
	試運転に必要な部材	4
	セット部品の確認	5
	システム図	6
システムバスルーム組立要領	1. 取付位置の確認	7
	2. 壁けがき・穴あけ	8
	3. コードの設置	9
	4. 電源・チューナーボックスの設置	9
	5. モニター取付金具の設置	11
	6. モニターの取付け	11
在来浴室組立要領	1. 取付位置の確認	13
	2. 壁けがき・穴あけ	14
	3. コード設置	15
	4. 電源・チューナーボックスの設置	15
	5. モニター取付金具の設置	17
	6. モニターの取付け	18
その他	1. 浴室オーディオとの接続方法	20
	2. 別売品	20
	※ システムバスルーム後付け時のご注意	20



安全上のご注意 (必ずお守りください)

組立の前に、
この安全上の注意をよくお読みの上、
正しく据付けてください。

◎この組立説明書では、製品を安全に正しく取り付けていただき、使用者への危害や財産への損害および組立業者への危害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。

	警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

◎下に示す絵表示は組立説明書や製品に表示して、組立業者の方に安全に正しく製品を取り付けていただくものです。内容をよく理解して正しく取り付けてください。

	この絵表示は、行ってはいけない「禁止」の内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

◎組立完了後、試運転及び各部の点検を行い、器具のがたつきや漏電・水漏れなどの安全上の不具合が無いことを確かめてください。

◎同梱されている取扱説明書は、使用者に製品を正しく安全に使用していただくための重要な書類です。紛失や汚れのないように大切に保管し、組立完了後、必ず使用者または元請店にお渡しください。

警告



必ず実行

設置は、組立説明書にしたがって確実に行う
設置が不完全な場合、感電や火災などの原因となります。
また、漏水により家財などを汚したり、腐らせるおそれがあります。



禁止

交流100V以外は使用しない
感電や発熱・火災の原因となるおそれがあります。



必ず実行

電気工事は関連する法令・法規にしたがって、必ず「有資格者（電気工事士）」が行う
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。



必ず実行

漏電遮断器が取り付けられていることを確認する
もし取り付けられていなければ電気工事店へ依頼して必ず取り付けてください。
感電するおそれがあります。



必ず実行

開梱後、不要になった梱包材はすみやかに処分する
段ボールや締付バンドなどでケガをするおそれがあります。
また、ビニール袋などは子供などがかぶって遊び、思わぬ事故につながるおそれがあります。



禁止

製品の改造や分解は行わない
火災や感電、落下による傷害のおそれがあります。

注意



必ず実行

組立に使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、容器などに記載の注意表示にしたがって、正しく使用する
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因につながるおそれがあります。



必ず実行

機器の取り付けは、確実にを行う
止水不良による漏水のおそれがあります。

取付け前のご注意

- テレビ取り付けの際、必要に応じ壁裏補強を実施してください。
- スチームサウナ等、高温（50℃を超える）になる場合には取り付けはできません。
- 浴室乾燥機のある浴室に取り付ける場合は、温風が浴室テレビに直接あたらない場所をお選びください。
- 屋外から直射日光のあたる場所への取り付けは避けてください。
- 薬品を使用するなど通常環境と異なる場所への取り付けはできません。
- 正面から浴室テレビを見ることが出来る位置に取り付けてください。
- 地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル放送チューナーを搭載しています。
- このテレビは日本国内のみで使用できます。
外国では、放送方式・電源電圧が異なりますので使用できません。

工 具

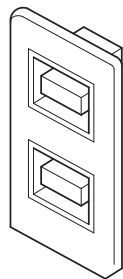
※在来浴室への取り付けには、下記以外の工具が必要となる場合があります。
現場に合わせて、工具を準備してください。

一般工具				
	電動ドリル	鉄工用ドリル刃 φ2.8、φ6(φ32下穴用)	□: 電動ドライバー (トルク調整機能付)	□: ドライバービット ⊕短・長 No.2・3(先端サイズ)
				
	コーキングガン	鉄工用ホルソー (φ32)	樹脂ハンマー	曲尺
				
□: 短寸のドライバー (100mm以内) ⊕ No.2(先端サイズ)	水平器	コンベックス	コードリール	
		※TOTO製システムバスルームに取り付ける場合。		
作業灯	脚立(大・小)			
		特殊ポンチ EKL01025		

□:電気工事で使用するもの

現場必要部材

※お客様がテレビと外部機器の接続を希望される場合は、
取り付けに必要となりますので別途手配ください。

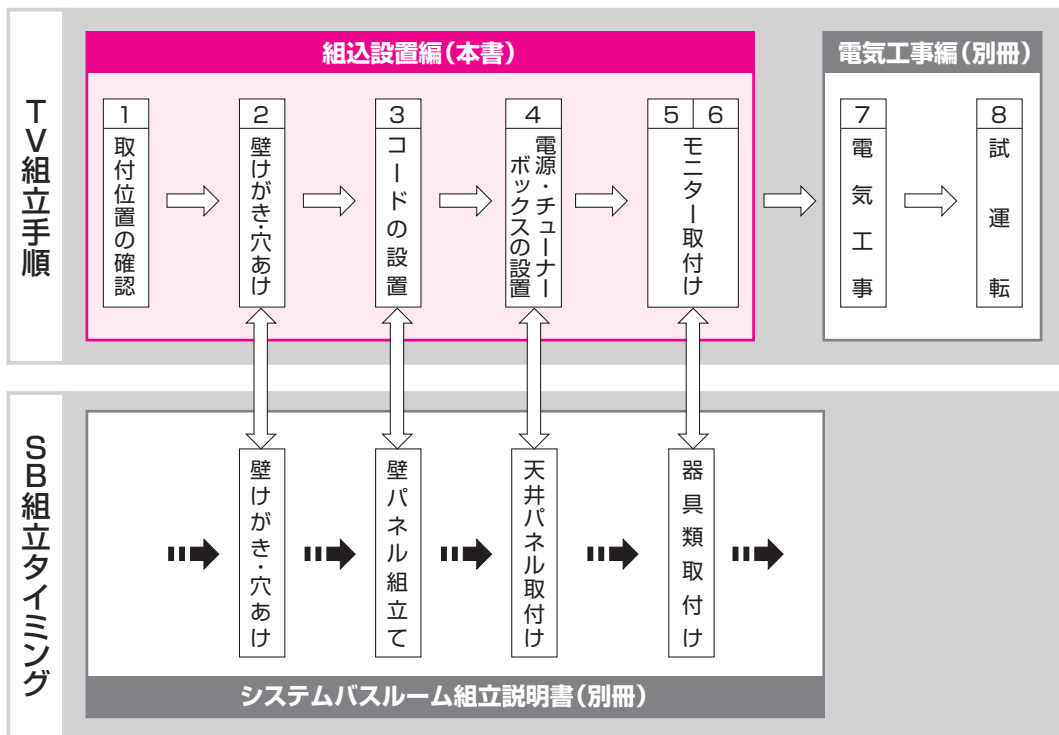


部品	数量
取付枠 (パナソニック製 WN3710 相当品)	1
プレート(プレートカバー、プレート枠) (パナソニック製 WN6002W 相当品)	1

※壁コンセント設置時は、電力配線と分離してください。
外部機器接続HDMIケーブルについては下記品番を必ずご使用願います。
●外部機器接続HDMIケーブル(品番:EKK30180)

組立手順

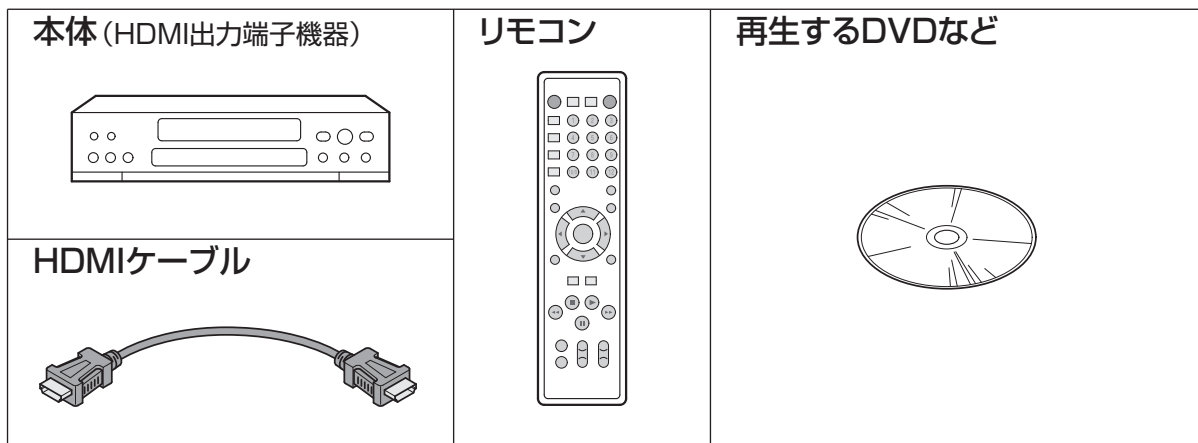
※システムバスルーム取り付けの場合は、システムバスルーム組立にあわせて取り付けてください。
 ※在来浴室取付けや後付けの場合は現場にあわせて変更してください。



試運転(元請店実施)に必要な部材

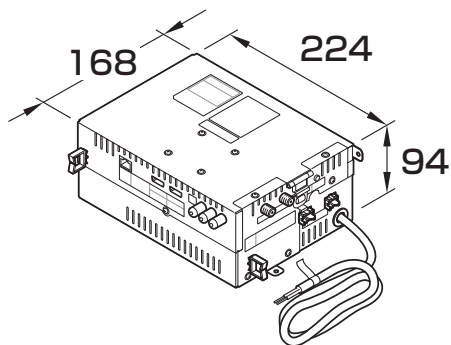
お客様がテレビと外部機器の接続を希望される場合のみ必要です。

リモコン付の映像機器(DVDやブルーレイディスクなど)

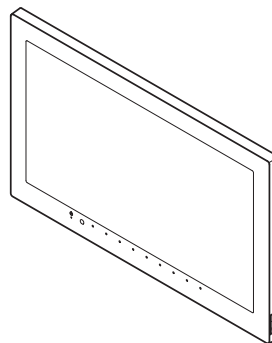


セット部品の確認

電源・チューナーボックス

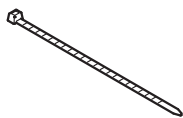


防水モニター(以下モニター)

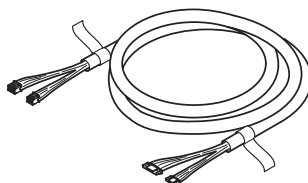


結束バンド 1本

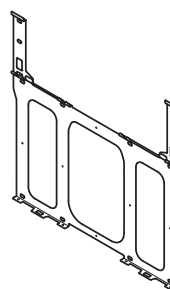
※浴室オーディオと接続時
および外部機器接続時に使用
(P.20参照)



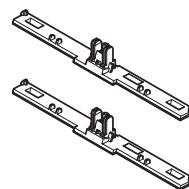
モニター中継コード
(3400mm)



モニター取付金具



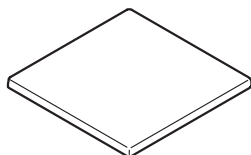
カバー 2個
(ねじセット)



別梱包

補強鋼板 EK141126

平天井(発泡断熱材付き)の場合



モニター取付金具取付ねじ 4.2 × 25、12本

アルミテープ W50 × L150

B-CASカード(電気工事店様引渡し部品)
※モニター中央に貼り付け

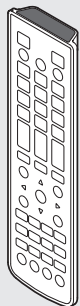
組立説明書[組込設置編](本書)

組立説明書[電気工事編](電気工事店様引渡し部品)

★リモコン、リモコンホルダー、ボタン型電池、取扱説明書は、使用者または元請店に確実にお渡しください。

また保管の際は直射日光のあたる場所(窓際など)に置かないでください。

防水リモコン(以下リモコン)
(お客様引渡部品)



リモコンホルダー
(お客様引渡部品)



ボタン型電池 CR2032 ※リモコンホルダーに同梱
(お客様引渡部品)

取扱説明書(お客様引渡部品)

システム図 (テレビ接続部分)

⚠ 注意



必ず実行

●落雷に備えて、アンテナ設備にアースを取るか、保安器を必ず設置してください。

⚠ 注意



必ず実行

●取付けの際は、必ず屋内開閉器(ブレーカー)と漏電遮断器を設置してください。

破線囲み部分 以外は、全て電気工事区分です。

アンテナから送られてくる電波が弱く受信障害となる場合は、ブースタ(増幅器)を設置してください。電波が強すぎて受信障害となる場合は、アッテネータ(減衰器)を用いて受信感度を弱めてください。

地上デジタル放送用 UHFアンテナ (市販品)

※電気工事で配線します。

BS・110度CS デジタル放送用 アンテナ (市販品)

CATVへの接続については各CATV会社にご確認ください。

CATV

分配器 (市販品)

必要に応じて保安器、ブースター等を設置する。

TOTOセレクト商品「浴室オーディオ」注)「浴室オーディオ」と接続する場合は、別途接続ケーブル「EKK30178」が必要になります。

アース

アンテナ線 同軸 5C相当

ここで実用感度55dB μ V以上85dB μ V以下が必要。

DVDやブルーレイディスク等 (HDMI出力端子付機器)

注)接続方法は次項を参照してください。

電源・チューナーボックス

BS・CS、UV分配器 (市販品)

地デジ

BS・110度CS

漏電遮断器

室内開閉器 (ブレーカー)

モニター中継コード (3.4m)

モニター

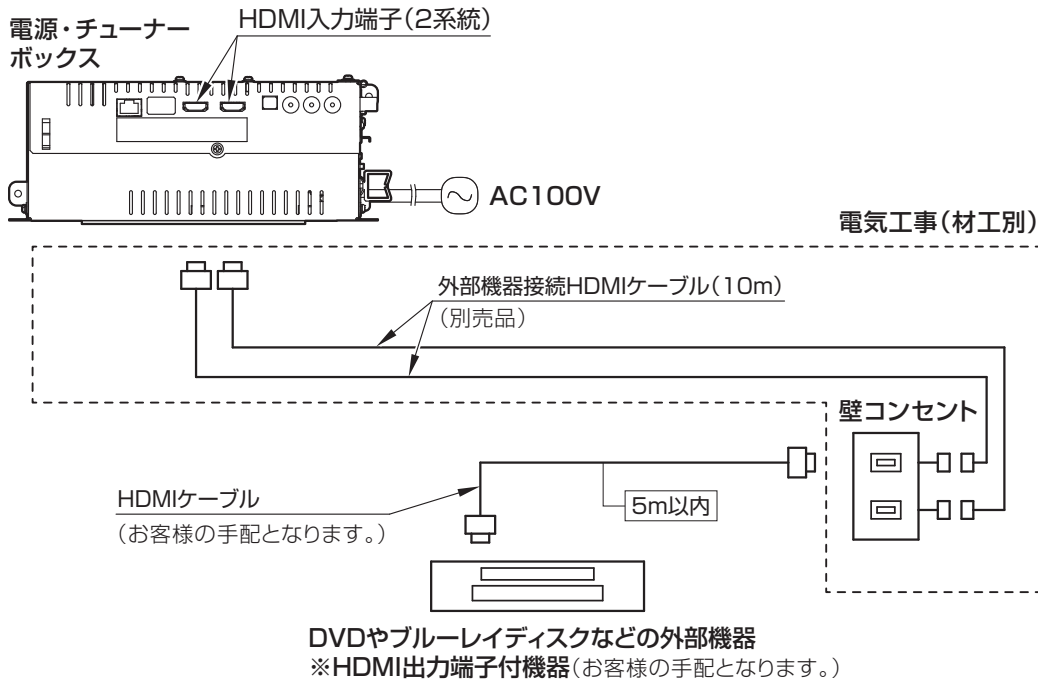
注)モニター中継コードを塩ビ管又は、電線管を使用し設置する場合は内径 ϕ 32以上の塩ビ管又は電線管を使用してください。

3.4mで長さが足りない場合には、別売品のモニター中継コード(6.4m)(P.20)で最長6.4mまで可能です。

内は本説明書 対象範囲

システム図 (外部機器接続部分)

内が電気工事店様の作業範囲となります。



TOTOでは外部機器接続HDMIケーブル(10m)をご用意しています。必ずご使用ください。
(品番:[UB用]EKK30180/[在来用]PZ6194)

⚠ 注意

【設置前にご確認ください】



必ず実行

- 電源・チューナーボックスから壁コンセントまでのケーブルは10mです。ケーブルが届く範囲に壁コンセントを確実に設置できるか確認してください。
- 壁コンセント設置位置はお客様と十分ご相談してください。壁コンセントから外部機器までケーブル長さ(5m)の制限があります。
- 電源・チューナーボックスから壁コンセントまで壁裏ケーブル配線が可能か確認してください。

システムバスルーム組立要領

1 取付位置の確認【システムバスルーム】

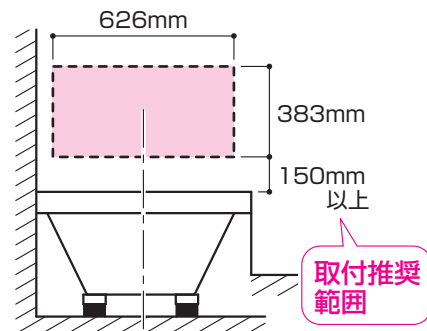
TOTO製システムバスルーム取り付けの場合のテレビ取付要領を記載します。
在来浴室組立ての場合は、P.13「在来浴室組立要領」へお進みください。

【壁パネル加工図に位置指定がない場合に実施】

モニター取付位置は取付推奨範囲を参考にして、浴槽の中からモニターを正面に見ることのできる位置に決めてください。
浴室テレビモニターの下側に150mm以上のねじ固定用スペースを確保してください。

モニター中継コードの届く範囲内に電源・チューナーボックスを設置してください。3.4m以上必要な場合は、別売品のモニター中継コード(6.4m)(P.20)を使用いただくと、最長6.4mまで可能になります。

※取付位置が指定されている場合には、変更可能な空間がないため、取付位置を変更することはできません。



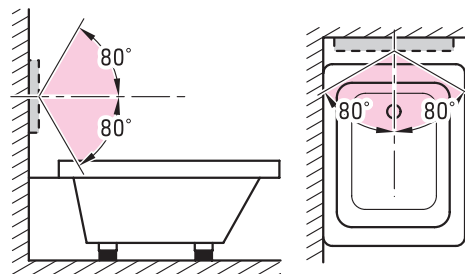
1 取付位置の確認【システムバスルーム】(つづき)

⚠ 注意



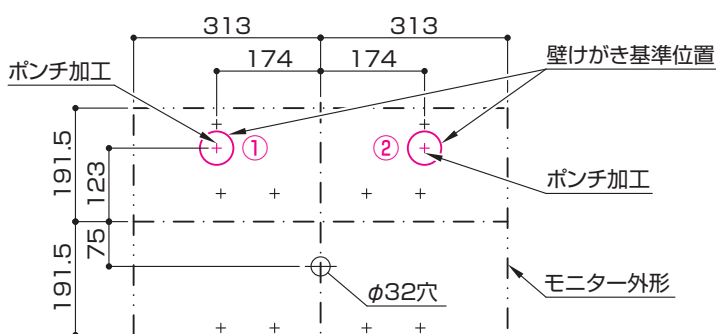
必ず実行

- モニターの視野角は上下80°、左右80°です。
- 水栓金具や壁裏配管などの取合いに十分ご注意ください。
- 浴室暖房機のある浴室に取り付ける場合は温風が直接あたらない位置に取り付けてください。
- 直射日光のあたる場所へは取り付けないでください。
- 見る角度によって画面が見えにくい場合は、リモコンのメニューから画面の明るさを調整して見やすい輝度にしてください。(取扱説明書 P.14、15)

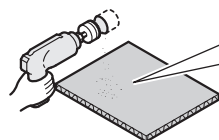
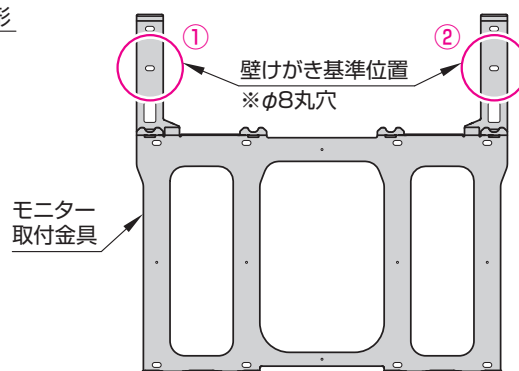
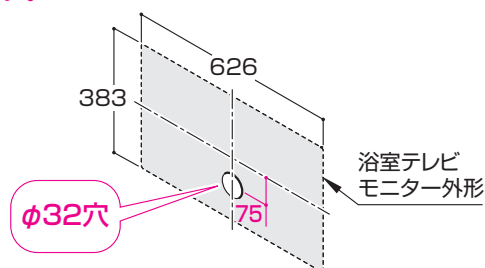


2 壁けがき・穴あけ【システムバスルーム】

- ① システムバスルーム壁パネル加工図の浴室テレビ取付位置をけがき、穴φ32を開ける。
「1 取付位置の確認」で取付位置を決めた場合、φ32穴加工位置はモニター中心位置の75mm下に開ける。
※ 他社システムバスルームに取り付けの場合には、ねじの下穴加工が必要になります。
詳しくは、各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。



上図の①②の箇所をけがき、その位置に合わせモニター取付金具をあて、他の箇所のけがきを行うと効率よく行えます。

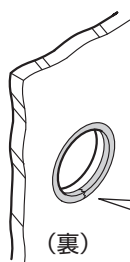


梱包材などを利用して切りくずを受ける。

注意

- モニター取付金具の壁けがき基準位置とポンチ加工した壁けがき基準位置の取付位置を間違えるとモニターの取り付けが行えません。
- 穴あけ後は、浴槽内の清掃を行ってください。もらいサビの原因となります。

- ② 壁裏側小口にアルミテープを貼る。



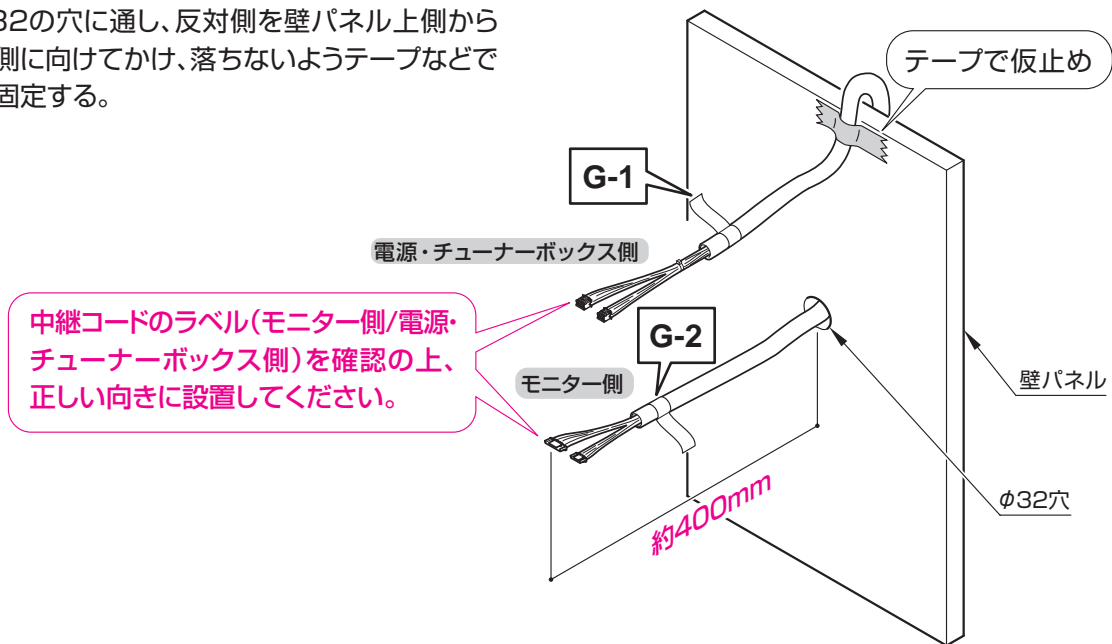
適当な大きさに切って壁裏小口全周を保護するように貼る。

注意

- コード類の保護のため、必ず壁裏側小口にアルミテープを貼ってください。
- アルミテープは表に出ないようにしてください。表に出たアルミテープにより防水性能が保持できなくなるおそれがあります。

3 コードの設置【システムバスルーム】

壁パネル組立ての際、モニター中継コードをφ32の穴に通し、反対側を壁パネル上側から内側に向けてかけ、落ちないようにテープなどで仮固定する。



4 電源・チューナーボックスの設置【システムバスルーム】

- HK/WKシリーズの電源・チューナーボックス/補強鋼板設置位置については、ケガキ図を参照ください。HK/WKシリーズ以外については、システム本体の組立説明書を参照ください。

警告



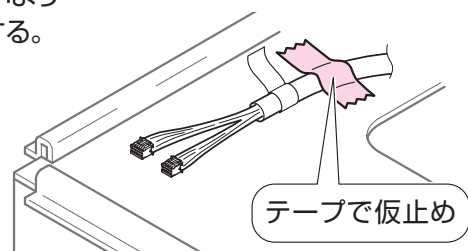
禁止

電源・チューナーボックスの上や横をグラスウールなどの保温材で覆わない
電源・チューナーボックスの上へは換気ダクトを設置しない
機器の故障や火災・漏電の原因となります。

注意

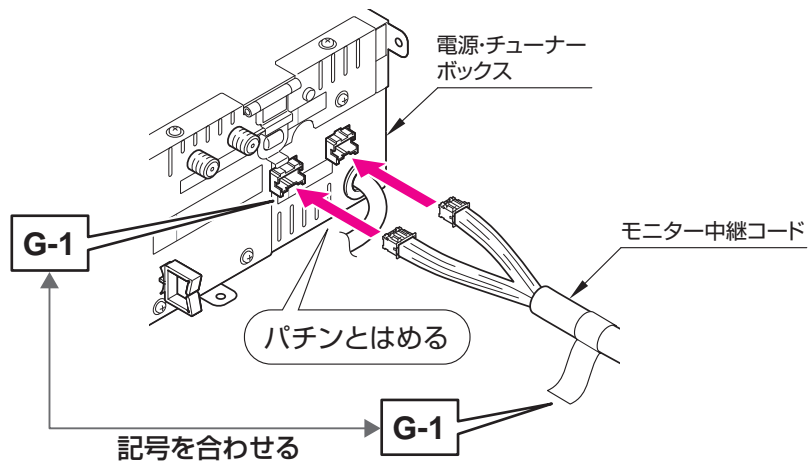
- 電源・チューナーボックスは必ず点検できる位置に設置してください。
- モニター中継コードはなるべく他の電気機器から遠ざけて配線してください。
- 両面テープで貼り付ける際、貼り付け面のほこりなどをあらかじめ掃除してください。
- 端子のキャップを外さないでください。
- 天井の電源・チューナーボックス設置部にグラスウールなどの保温材がはってある場合は、約300×350程度はがし、天井に直接電源・チューナーボックスを設置してください。

- ①天井パネル取り付けの場合、モニター中継コードを落とさないように天井裏面に取りまわし、落ちないようにテープなどで仮固定する。

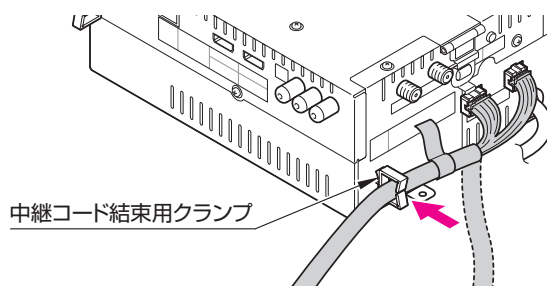


4 電源・チューナーボックスの設置 [システムバスルーム] (つづき)

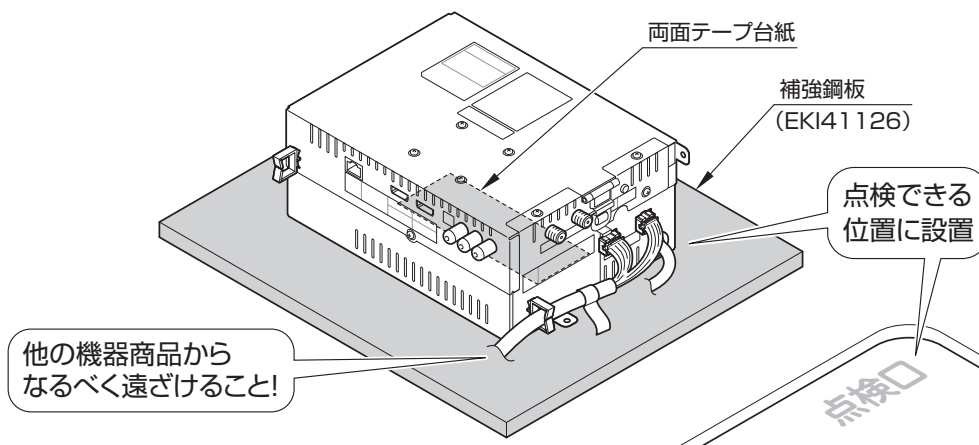
- ②電源・チューナーボックスにモニター中継コードのコネクター2箇所を接続する。



- ③電源・チューナーボックスの中継コード結束用クランプにモニター中継コードを通し、固定する。



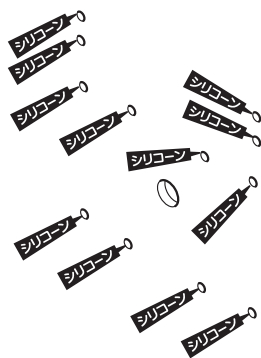
- ④モニター中継コードを天井裏にある他の機器商品からなるべく遠ざける。
※近い場合には電波障害を受けるおそれがあります。
- ⑤下図を参照し、電源・チューナーボックスと補強鋼板を天井裏の所定の位置に仮置きする。
※平天井(発泡断熱材付き)の場合に付属。
- HK/WKシリーズの電源・チューナーボックス/補強鋼板設置位置については、ケガキ図を参照ください。
HK/WKシリーズ以外については、システム本体の組立説明書を参照ください。



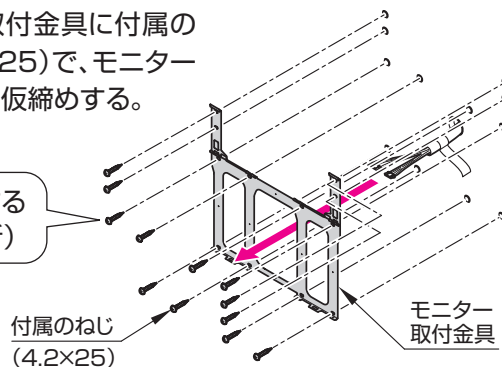
- ⑥位置が決まったら、補強鋼板の裏面の両面テープの保護紙をはがし、補強鋼板を固定する。
- ⑦電源・チューナーボックスの裏面の両面テープの保護紙をはがし、電源・チューナーボックスを固定する。

5 モニター取付金具の設置【システムバスルーム】

- ①「2 壁けがき・穴あけ」①のポンチ加工部にシリコーンを塗布する。
- ②モニター取付金具に付属のねじ(4.2×25)で、モニター取付金具を仮締めする。



仮締めする
(12箇所)



⚠ 注意



必ず実行

- このあと水平レベル出しを行いますので、本締めはせず、仮締めを行ってください。

- ③モニター取付金具を仮設置した状態で、右図①② 2箇所です水平を出し、その後本締めする。
※ねじ本締めは対角に行うこと。

⚠ 注意

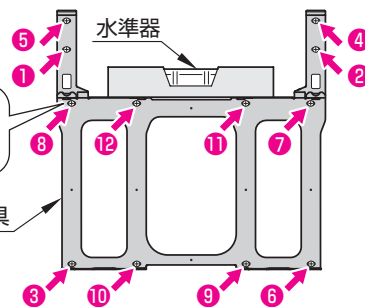


必ず実行

- 確実に12箇所止めてください。モニターの取付不良の原因となります。

本締めする
(12箇所)

モニター取付金具



注意

ねじ本締め後にはみ出したシリコーンはふき取ってください。
ねじ部に大量にシリコーンが残った場合、モニターの取付不良の原因となります。

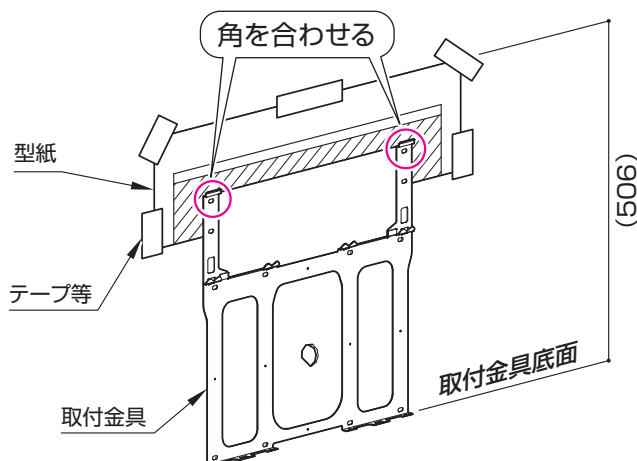
ふき取る



6 モニターの取付け【システムバスルーム】

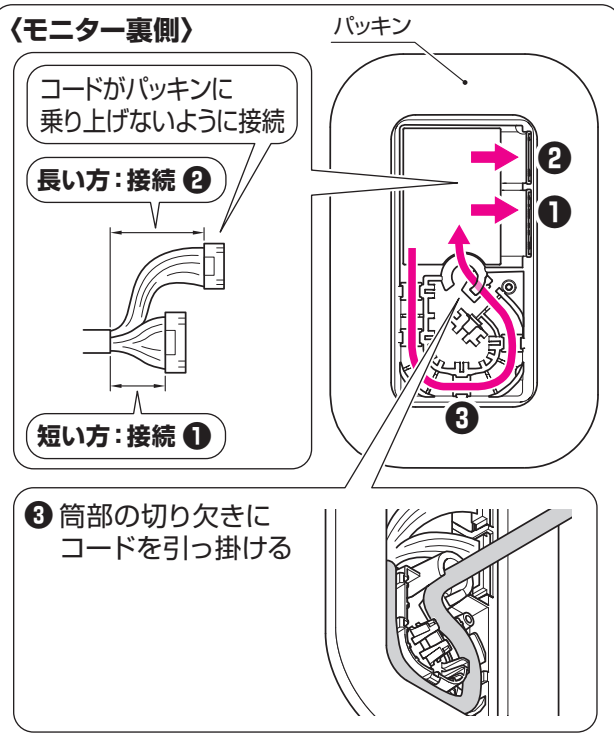
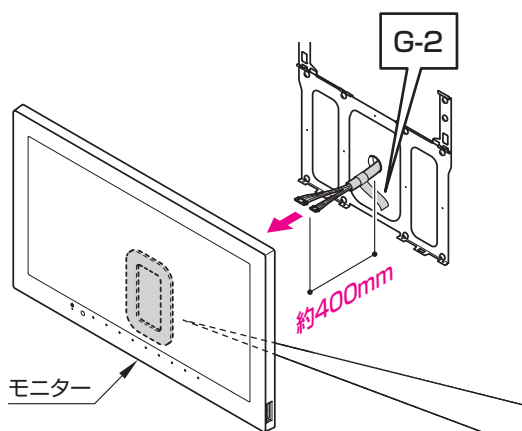
タイル壁の場合は、P.17「5. モニターの取付金具の設置【在来浴室】」へお進みください。

- ①取付金具をねじ固定後、同梱のモニター取付用型紙を壁に貼り付ける。

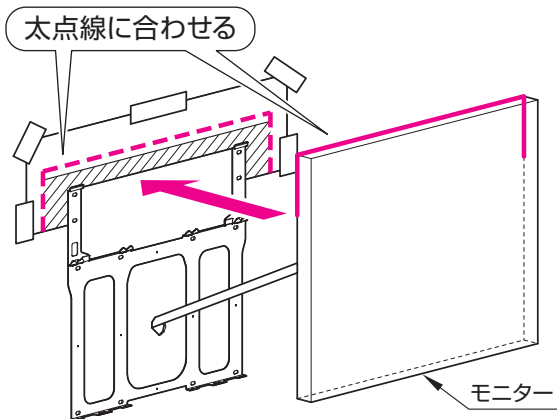


6 モニターの取付け【システムバスルーム】（つづき）

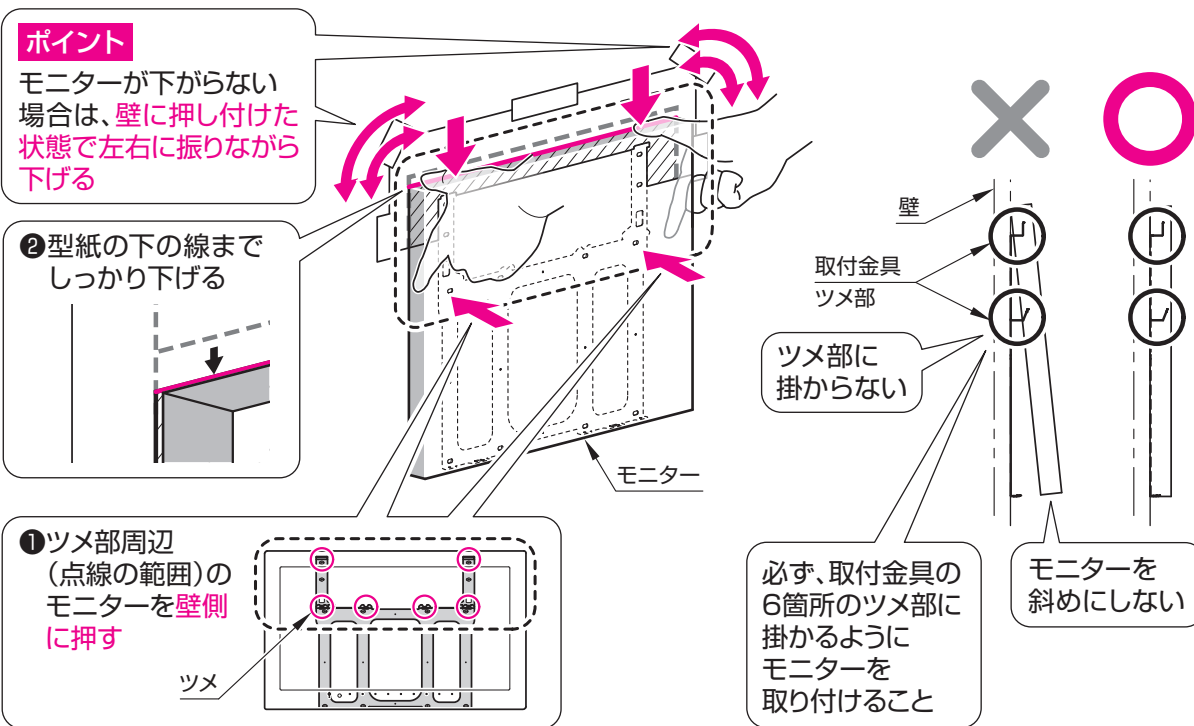
②コードをモニターの裏側に接続①→接続②の順番で接続する。



③型紙の太点線にモニターを合わせる。



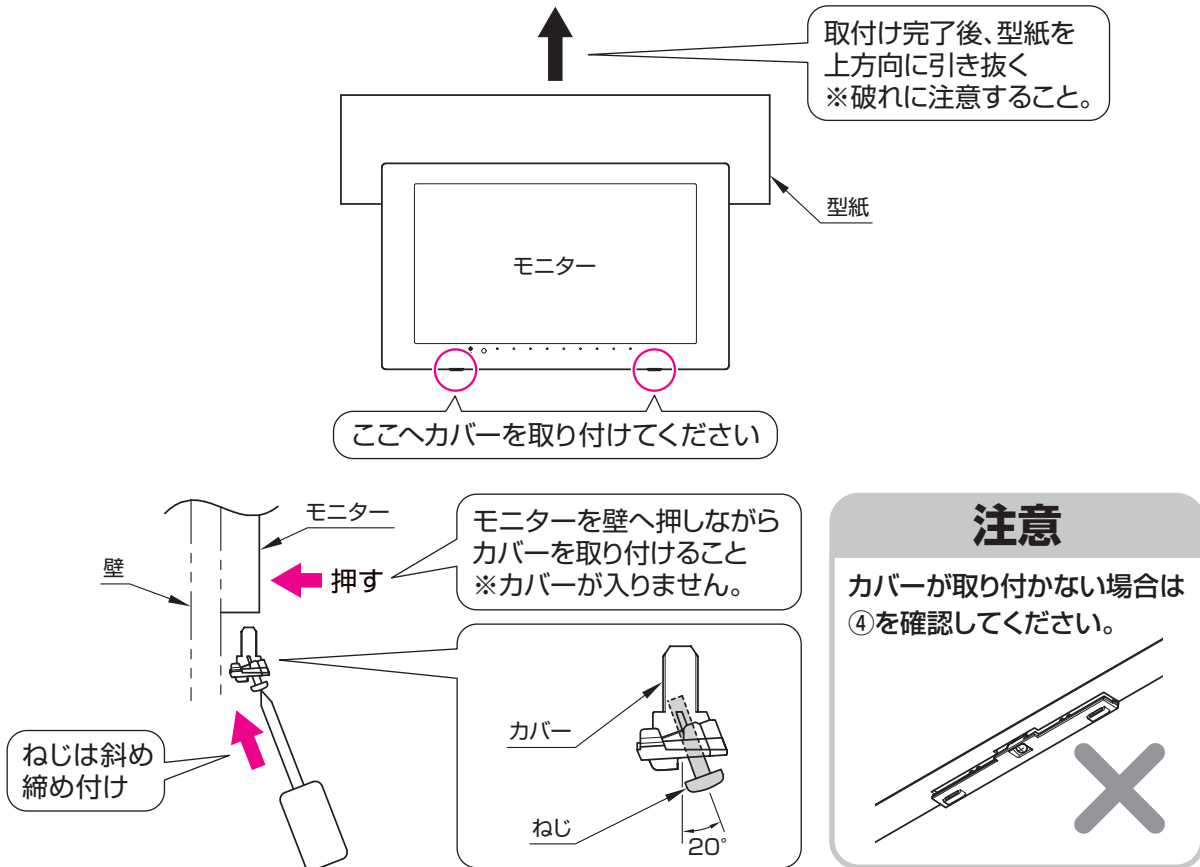
④ツメ (6箇所) がはまるように、モニターを壁に押し付けながら型紙の下の線まで下げる。



6 モニターの取付け【システムバスルーム】（つづき）

⑤カバー2箇所を取り付け後、型紙を取り除く。

※詳細はモニター下部の「カバー取付要領」ラベルを参照



※TOTO製システムバスルームの場合には、モニターへのシリコン塗布は必要ありません。他社システムバスルームに取り付けの場合には、各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。

在来浴室組立要領

1 取付位置の確認【在来浴室】

在来浴室取り付けの場合のテレビ取付要領を記載します。
システムバスルーム組立の場合は、P.7「システムバスルーム組立要領」へお進みください。

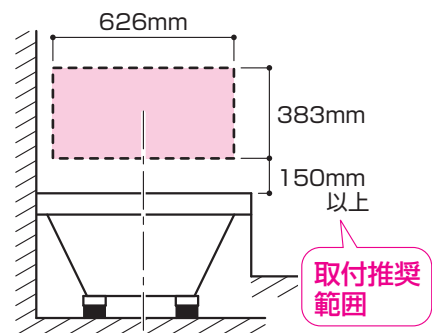
【壁パネル加工図に位置指定がない場合に実施】

モニター取付位置は取付推奨範囲を参考にして、浴槽の中からモニターを正面に見ることのできる位置に決めてください。

浴室テレビモニターの下側に150mm以上のねじ固定用スペースを確保してください。

モニター中継コードの届く範囲内に電源・チューナーボックスを設置してください。3.4m以上必要な場合は、別売品のモニター中継コード(6.4m) (P.20)を使用していただけると、最長6.4mまで可能になります。

※取付位置が指定されている場合には、変更可能な空間がないため、取付位置を変更することはできません。



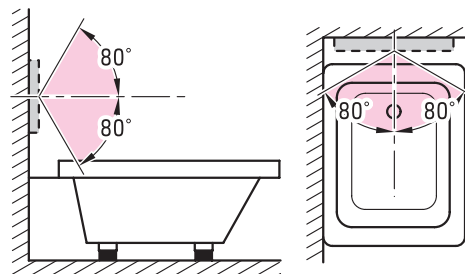
1 取付位置の確認【在来浴室】（つづき）

⚠ 注意



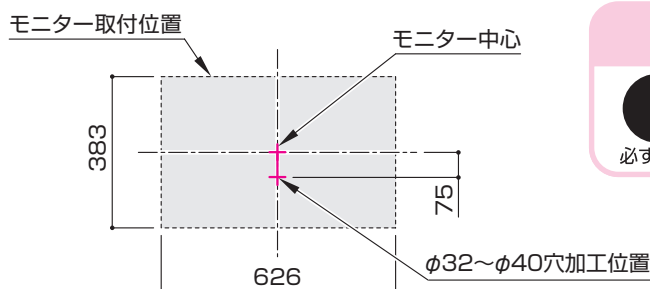
必ず実行

- モニターの視野角は上下80°、左右80°です。
- 水栓金具や壁裏配管などの取合いに十分ご注意ください。
- 浴室暖房機のある浴室に取り付ける場合は温風が直接あたらない位置に取り付けてください。
- 直射日光のあたる場所へは取り付けないでください。
- 見る角度によって画面が見えにくい場合は、リモコンのメニューから画面の明るさを調整して見やすい輝度にしてください。(取扱説明書 P.14, 15)



2 壁けがき・穴あけ【在来浴室】

- ① モニター取付位置をけがき、モニター中心とモニター中心位置の75mm下に $\phi 32 \sim 40$ 穴加工位置を下記寸法でけがく。



⚠ 注意



必ず実行

- $\phi 32 \sim \phi 40$ 穴加工位置はモニター中心位置より75mm下になります。

- ② モニター取付金具を壁にあてた状態で水準器で水平を出しながら、固定用ねじ位置(12箇所)をけがく。

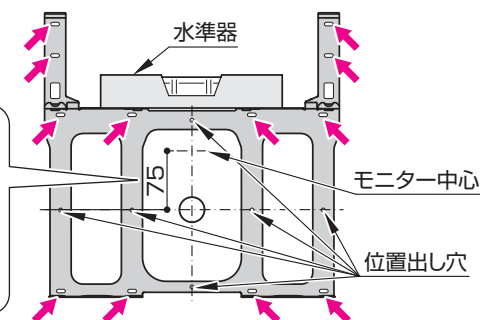
⚠ 注意



必ず実行

- $\phi 32 \sim \phi 40$ 穴加工位置はモニター取付金具の中心ではありません。
- 必ず上記要領で取り付けてください。

モニター中心けがき線が位置出し穴の中心を通るように合わせてください。

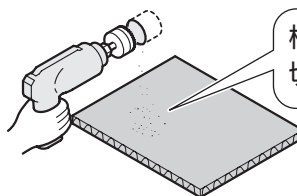


※ 取り付ける壁の材質によって取付強度を確保できない場合は、壁裏補強材を使用してください。

- ③ $\phi 32 \sim \phi 40$ 穴を①のけがき線の中心にあけ、固定用ねじ位置に下穴をあける。
壁面に直接ねじで固定できる場合は $\phi 2.8$ 。
タイル壁等にてアンカー(現場手配)を使用する場合には使用するアンカーの指示する穴径をあけてください。

注意

穴あけ後は、浴槽内の清掃を行ってください。
もらいサビの原因となります。

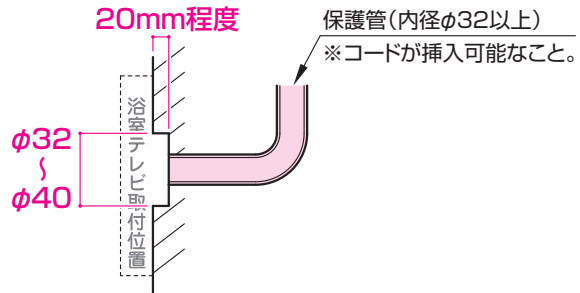


梱包材などを利用して切りくずを受ける。

3 コード設置【在来浴室】

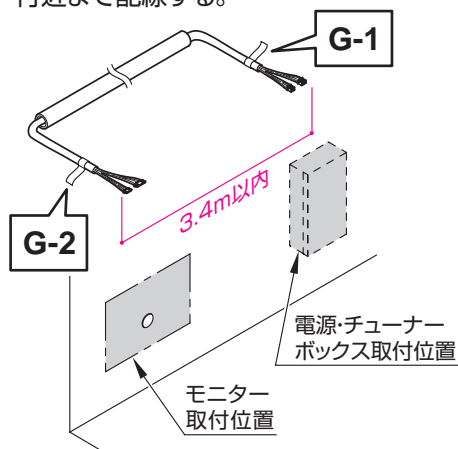
屋内配線の場合

〈モニター中継コード〉
壁にφ32～φ40の空間を設け、コード類を通す保護管を設置してください。



屋外配線の場合

モニターに付属のコード取出し位置付近から電源・チューナーボックス設置位置付近まで配線する。



⚠ 注意



必ず実行

- 付属のモニター中継コードの長さは3.4mです。コードの届く範囲内に電源ボックスを設置してください。3.4m以上必要な場合は、別売品のモニター中継コード(6.4m)(P.20)を使用いただくと最長6.4mまで可能になります。
- コードは必ず内径φ32以上の保護管の中を通してください。環境により劣化が早まるおそれがあります。
- 屋外壁開口部には、雨水の浸入のなきようコーキング等を実施してください。
- コネクターは防水仕様ではありませんので、必ず防水処置を行ってください。

4 電源・チューナーボックスの設置【在来浴室】

屋内設置の場合

⚠ 警告



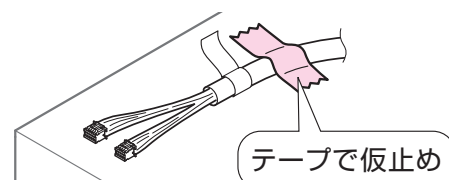
禁止

電源・チューナーボックスの上や横をグラスウールなどの保温材で覆わない
電源・チューナーボックスの上へは換気ダクトを設置しない
機器の故障や火災・漏電の原因となります。

注意

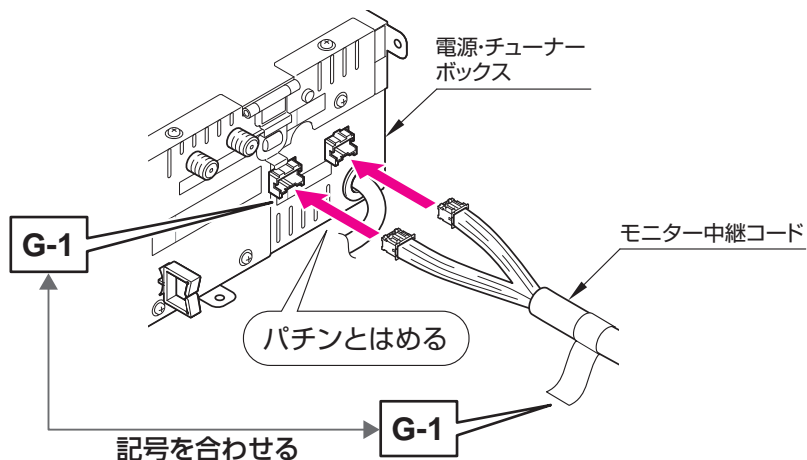
- 電源・チューナーボックスは必ず点検できる位置に設置してください。
- モニター中継コードはなるべく他の電気機器から遠ざけて配線してください。
- 両面テープで貼り付ける際、貼り付け面のほこりなどをあらかじめ掃除してください。
- 端子のキャップを外さないでください。
- 天井に保温材が貼ってある場合には電源・チューナーボックス設置部の保温材を約300×350程度はがし、天井に直接電源・チューナーボックスを設置してください。

① 電源・チューナーボックスに接続するまでは、モニター中継コードを見失わないように、天井裏面や梁などにテープなどで仮固定する。

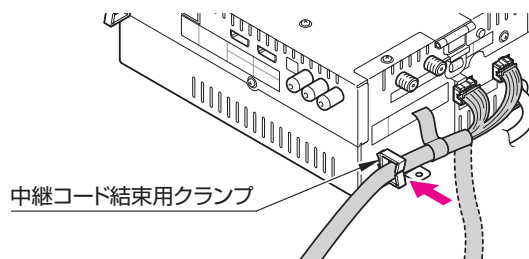


4 電源・チューナーボックスの設置【在来浴室】（つづき）

②電源・チューナーボックスにモニター中継コードのコネクタ2箇所を接続する。



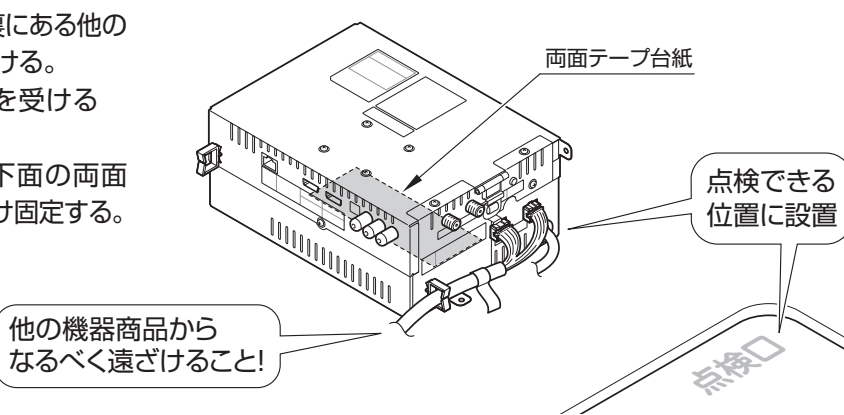
③電源・チューナーボックスの中継コード結束用クランプにモニター中継コードを通し、固定する。



④モニター中継コードを天井裏にある他の機器商品からなるべく遠ざける。

※近い場合には電波障害を受けるおそれがあります。

⑤電源・チューナーボックス下面の両面テープ台紙をはがし、貼り付け固定する。



屋外設置の場合

⚠ 警告

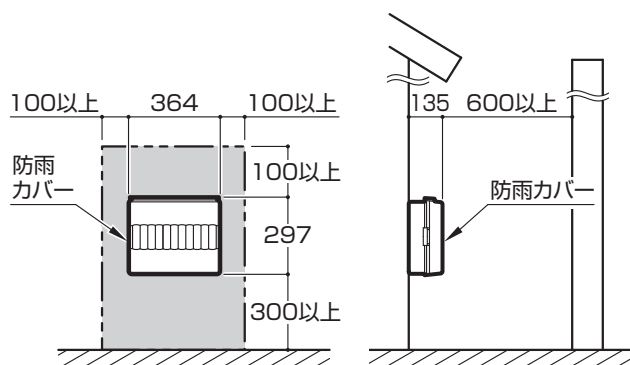
必ず防雨カバーを取り付ける

- 屋外設置の場合は必ず防雨カバーをご使用ください。電源・チューナーボックスは防水仕様ではありませんので感電など事故のおそれがあります。
- コード類の長さを考慮して取付位置を決めてください。防雨カバーは別売品(PZ6032)にてご用意しております。



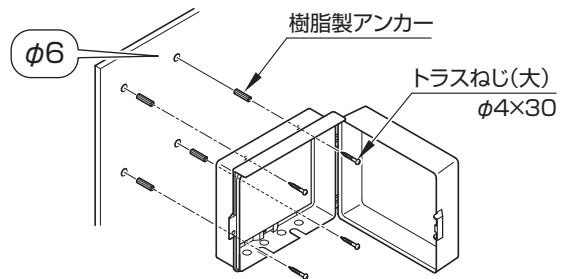
必ず実行

⑥防雨カバー取付位置を確認し、下穴をけがく。

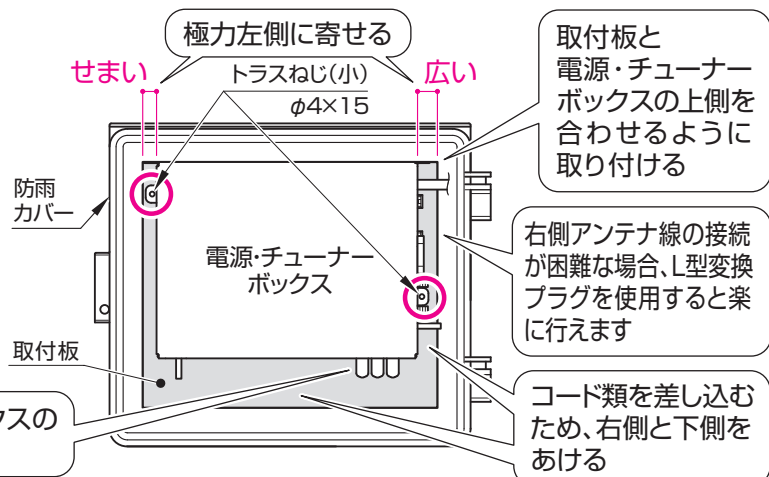


4 電源・チューナーボックスの設置【在来浴室】(つづき)

- ⑦ 下穴(φ6)をあけて取付位置に樹脂製アンカーを打ち込む。
- ⑧ 防雨カバーをトラスねじ(大)で固定する。



- ⑨ 電源・チューナーボックスに付いている取付固定穴(2箇所)を使用して電源・チューナーボックスを防雨カバーにトラスねじ(小)2本で固定する。
※電源・チューナーボックスは端子側を下側にし、図のように防雨カバー内にガタツキのないように取り付けてください。



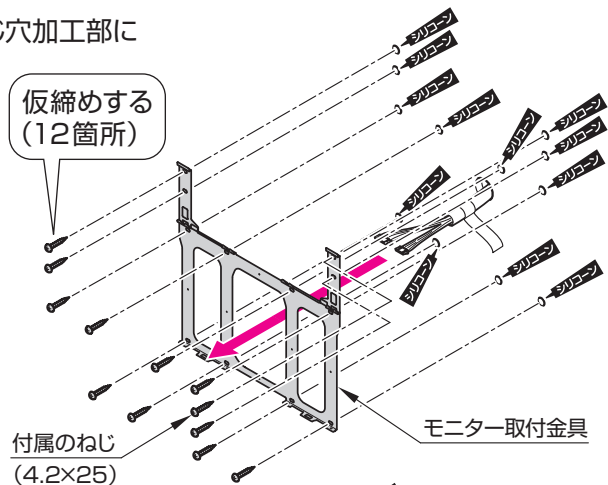
電源・チューナーボックスの端子部を下側にする

5 モニター取付金具の設置【在来浴室】

- ①「2 壁けがき・穴あけ【在来浴室】」③の固定用ねじ穴加工部にシリコンを塗布する。
※アンカー(現場手配)を使用する場合は、アンカーを樹脂ハンマー等で打ち込んでください。
- ② モニター取付金具に付属のねじ(4.2×25)で、モニター取付金具を仮締めする。

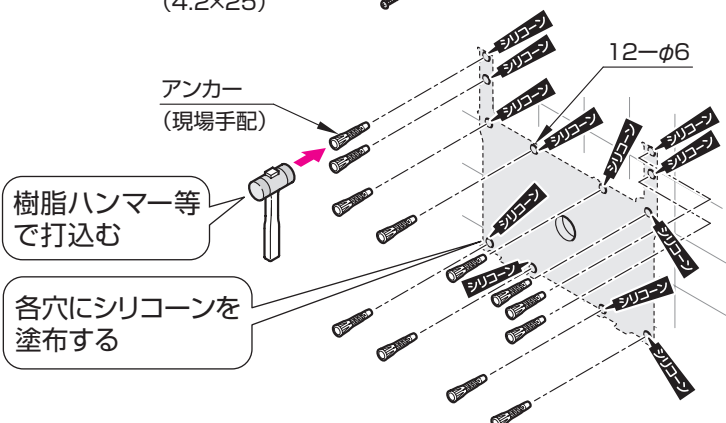
⚠ 注意

- 必ず実行
 - このあと水平レベル出しを行い、ますので本締めはせず、仮締めを行ってください。



【タイル壁の場合】

- ※タイル壁設置の場合は、使用するアンカー(現場手配)指定の下穴をあけてください。



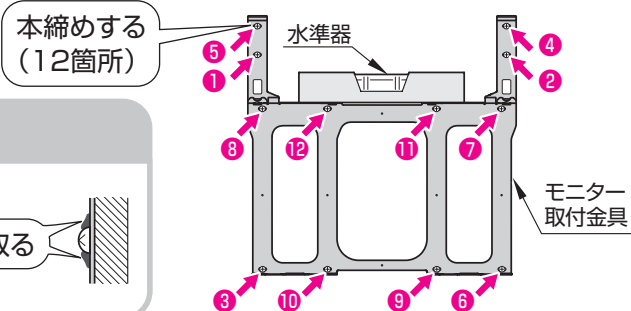
5 モニター取付金具の設置【在来浴室】（つづき）

- ③モニター取付金具を仮設置した状態で、下図①②2箇所（12箇所）で水平を出し、その後本締めする。
※ねじ本締めは対角に行うこと。

注意

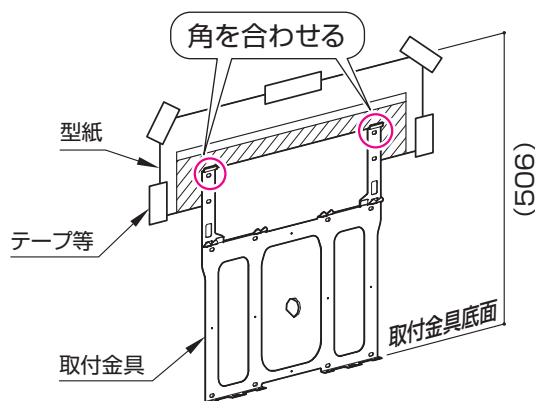
ねじ本締め後にはみ出したシリコーンはふき取ってください。
ねじ部に大量にシリコーンが残った場合、モニターの取付不良の原因となります。

ふき取る

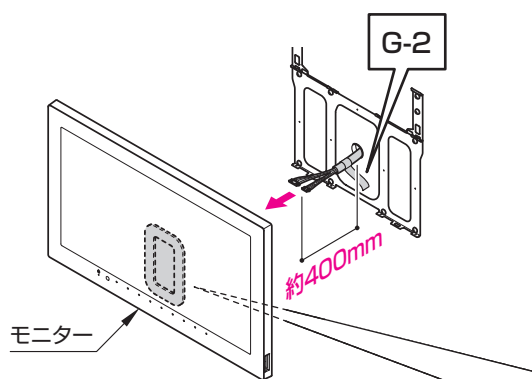


6 モニターの取付け【在来浴室】

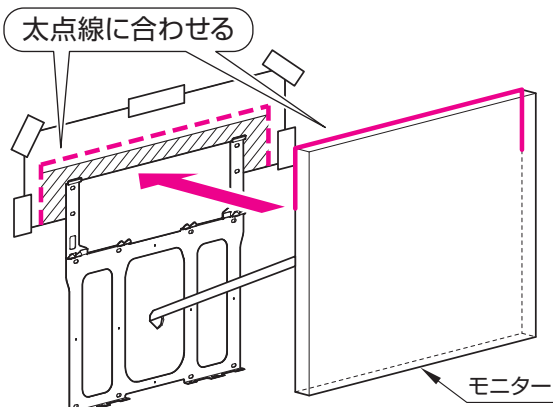
- ①取付金具をねじ固定後、同梱のモニター取付用型紙を壁に貼り付ける。



- ②コードをモニターの裏側に接続①→接続②の順番で接続する。



- ③型紙の太点線にモニターを合わせる。



＜モニター裏側＞

パッキン

コードがパッキンに乗り上げないように接続

長い方：接続②

短い方：接続①

③ 筒部の切り欠きコードを引っ掛ける

6 モニターの取付け【在来浴室】（つづき）

④ ツメ（6箇所）がはまるように、モニターを壁に押し付けながら型紙の下の線まで下げる。

ポイント
モニターが下がらない場合は、壁に押し付けた状態で左右に振りながら下げる

② 型紙の下の線までしっかり下げる

① ツメ部周辺（点線の範囲）のモニターを壁側に押す

必ず、取付金具の6箇所のツメ部に掛かるようにモニターを取り付けること

モニターを斜めにしない

ツメ部に掛からない

取付金具
ツメ部

壁

⑤ カバー2箇所を取り付け後、型紙を取り除く。
※詳細はモニター下部の「カバー取付要領」ラベルを参照

取付け完了後、型紙を上方向に引き抜く
※破れに注意すること。

型紙

モニター

ここへカバーを取り付けてください

モニターを壁へ押しながらカバーを取り付けること
※カバーが入りません。

壁

モニター

押す

ねじは斜め締め付け

カバー

ねじ

20°

注意

カバーが取り付けられない場合は④を確認してください。

⑥ モニターの下辺を除く3辺にシリコンを切れ目なく塗布する。
※在来浴室の場合、壁材質が不明確なため、シリコン塗布は確実に行ってください。

注意

！ 確実な塗布を行う

- 塗布が不備の場合は、モニター内に水が浸入し故障する原因となります。

必ず実行

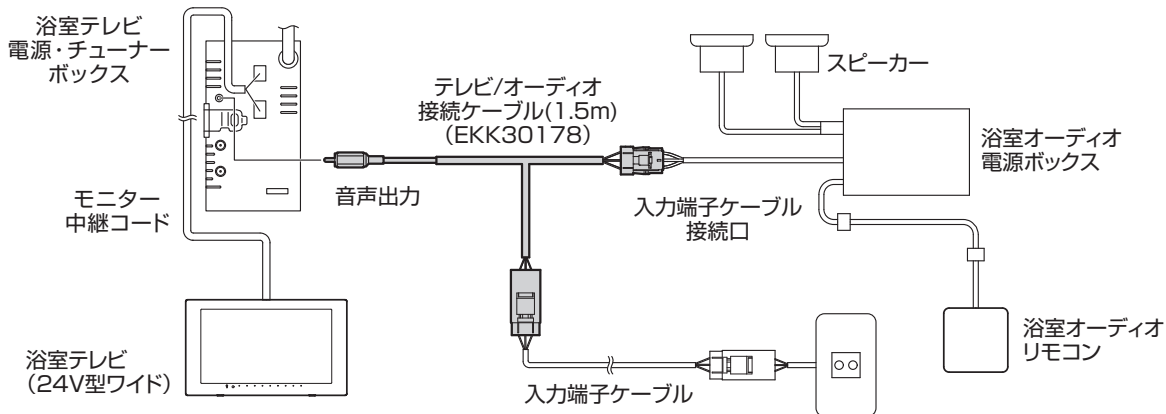
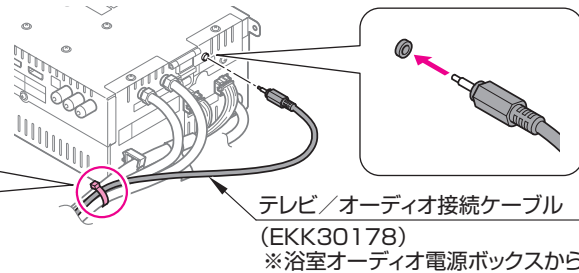
シリコン

その他

1 浴室オーディオとの接続方法

浴室テレビ電源・チューナーボックスのヘッドホーン端子にテレビ／オーディオ接続ケーブル(EKK30178)を差し込む。

アンテナ線とテレビ／オーディオ接続ケーブルをまとめて、モニター中継コードに浴室テレビ付属の結束バンドで固定する。
※ケーブルの引っ張りによる断線や脱落防止のため。



※浴室オーディオの取り付けについては浴室オーディオの組立説明書を参照してください。

組立の前に

システムバスルーム組立要領

在来浴室組立要領

その他

2 別売品

品名〈品番〉	必要数	形状	用途
防雨カバー 〈PZ6032〉	1	トラスねじ(大)×4 トラスねじ(小)×2 樹脂製アンカー×4	電源・チューナーボックスを屋外設置する場合に必要です。
外部機器接続 HDMIケーブル(10m) 〈【UB用】EKK30180〉 〈【在来用】PZ6194〉	1		お客様がテレビと外部機器の接続を希望される場合に必要となります。 (別売品を必ず使用ください。) ※P.3参照
モニター中継コード (6.4m) 〈【UB用】EKK30179〉 〈【在来用】PZ6195〉	1		モニター中継コードを延長する場合に必要です。 ※中継コードはモニター中継コード(6.4m)を使用することによって最長6.4mまで対応可能になります。(それ以上の延長はできません。)

※システムバスルーム後付け時のご注意

- 穴あけ前に必ずコード類の配線スペースがあることを確認してください。
- 穴あけ位置にシステムバスルーム壁裏配管やコード類、建築側柱など干渉物がないことを確認してください。
- コード類の壁裏配線は針金などを使用し実施してください。
この際、コード類を傷つけないようご注意ください。

TOTO